

# デジタル教科書(地図)を活用した 歴史授業

東京都公立中学校教諭

## 1 はじめに

授業のICT化が進められているなかで、デジタル教科書が授業で活用される例が多くみられるようになった。一方で『デジタル教科書(地図)』(以下、デジタル地図帳)の活用は途上であるとの指摘がある。『中学校 社会科のしおり』2017年1学期号p.24)

本稿では、歴史的分野の授業におけるデジタル地図帳を活用した実践事例を紹介したい。

## 2 授業実践の例

### (1) 単元と学習課題

#### ①単元

第2部 第4章 展開する天皇・貴族の政治

#### 1. 権力をにぎった貴族たち

「平安京と東北支配」

#### ②学習課題

本時の学習課題を「なぜ、平安京に都が移されたのだろうか、そしてどのように政治が広げられたのか。」とし、

- ・桓武天皇が平安京に都を移した理由
  - ・律令政治の立て直しと支配地域の拡大
- の2点を空間的に捉えながら、根拠をもつ

て説明することを目標とした。

### (2) 本時の展開

#### ① 導入

<地図帳による興味をもたせる作業>

#### 発問

京都の寺院を地図帳で探してみよう。

#### 授業を進める際の留意点

地図帳p.100「③京都市中心部」の地図を使って班活動による寺院探しを行った。その際にデジタル地図帳で同じページを電子黒板に提示し、作業の流れをあらかじめ示した。

これは地図のどこを見ればよいのか、何をすればよいのかということがわからず、作業が滞る生徒が一定数いることから行っている。これにより、地図を見る視点が定まり、班での活動が活発になる効果がある。



図1 地図帳で京都市内の寺院探し

答え合わせの際には、生徒に電子黒板へ直接○印をつけながら発表を行わせた。これにより生徒が画面に注目し、自分たちの見つけたものと比較し、足りないものも補い合えた。

### 生徒の反応

- ・京都にはやはり寺院がたくさん見られる。
- ・聞いたことのある寺院がいくつもあった。

### ② 展開1

<考察の前提となる状況をとらえる作業>

#### 発問

平安京に都が移され、寺院はどこにつくられたのか確認してみよう。

### 授業を進める際の留意点

ここで歴史資料集（『アドバンス 中学歴史資料』p.32）にある当時の平安京の図を使った。平安京の外側の道をペンでなぞり都の範囲をおさえるとともに、平城京に似た碁盤の目状になっていることに気づかせた。そのうえで①での作業と同じ手法で寺院探しを行った。データ化した歴史資料集を地図帳と同様に電子黒板に提示し、答え合わせも同じように行った。

### 生徒の反応

- ・京都の寺院の多くは都の外にある

### ③ 展開2

<展開1をふまえた考察>

#### 発問

なぜ平安京に都が移されたのだろうか

### 授業を進める際の留意点

平城京（『アドバンス 中学歴史資料』p.25）と平安京（同p.32）の地図を並べて提示し、2つの都を比較し違いを考えさせた。その際には先の作業で平安京の外に寺院があるということに着目させて比較させた。

### 生徒の反応

- ・平城京では都の中に寺があった。
- ・奈良時代は仏教の力で国を守っていた。
- ・寺がじゃまになったのでは？

### 展開2のまとめ

- ・仏教ではなく天皇中心の政治で国を治めようとした。
- ・天皇中心の律令政治を立て直そうとした。
- ・桓武天皇は政治を立て直すために都を平安京に移した。

### ④ 展開3

<展開2をふまえて天皇の政治がどのように拡大していくかをとらえる考察>



図2 平城京（写真の復元模型は奈良市役所蔵）と平安京（写真の復元模型は京都市歴史資料館蔵）の比較（『アドバンス 中学歴史資料』より）





図3 地図帳により平安京の位置と東北地方との関係を確認

### 発問

桓武天皇は天皇中心の律令政治をどのように広げていったのだろうか。

### 授業を進める際の留意点

デジタル地図帳 p.78～80の日本全図を提示し、京都を指し示すことで平安京の位置を確認させた。さらに、朝廷の当時のおおよその支配地域を確認するために関東地方までの範囲を指し示した。

歴史資料集の東北地方の支配地域の拡大のようすを示した地図で拡大の流れを確認する作業を行い、拠点となった場所（多賀城、胆沢城、志波城）からどのように支配地域が広がっているかを考察させた。

### 生徒の反応

- ・ 支配地域は北上していている。
- ・ もともと住んでいる人々は支配されたくないので抵抗する。

### 展開3のまとめ

- ・ 坂上田村麻呂が征夷大將軍として送り込まれた。
- ・ 蝦夷が指導者アテルイのもと激しく抵抗した。

### 展開3の補足

さらに深めさせるために東北地方の地図で確認させた。地図帳p.129～131の東北地方を提示し、歴史的分野に関する多賀城跡、胆沢城跡、志波城跡（紫色で示されている）を探させた。また、多賀城については市町村表記（多賀城市）

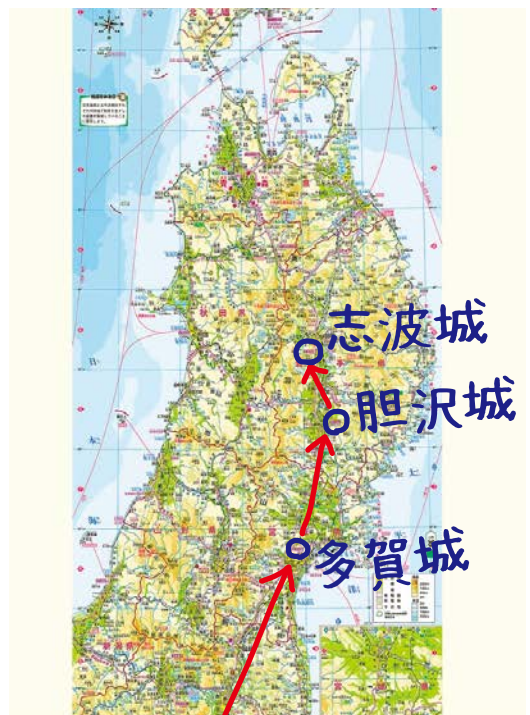


図4 東北支配拡大の流れを確認

があることに気づく生徒もおり、歴史上の場所から現在の自治体の名前がつけられていることを理解させ、学習している時代と現在を結びつけていった。

### ⑤ 本時のまとめ

「なぜ、平安京に都が移されたのだろうか、そしてどのように政治が広げられたのか。」という学習課題に対して、最後に生徒がまとめを行った。以下に一例を示す。

- ・桓武天皇は、仏教の僧が政治に口出ししてくるのを嫌がって都を平安京に移して律令政治を立て直そうとした。都から寺院を追い出していることからわかる。
- ・桓武天皇が仏教を都に入れないうちに都の中に寺をつくらせなかった。仏教中心ではなく天皇中心の政治を立て直そうとしたから。
- ・桓武天皇は律令政治を東北地方にまで広げようと抵抗していた蝦夷を征伐するために坂上田村麻呂を送った。

以上のように、生徒が歴史的な事象を地図で確認したことで空間的な関係をイメージしながら根拠をもって説明できていたと考える。

## 3 デジタル地図帳を活用する効果

歴史の授業において、教科書や資料集に示されている地図は範囲が限られミクロの視点ではとらえやすい。しかし、どこの話なのか、それがどのように広がっていくか、どのようにつながっているかなど、マクロの視点ではとらえにくい場合もあると思われる。これは授業での生徒の反応を通して感じてきたことである。

そこで使えるのが地図帳である。歴史の事象を空間的に俯瞰することができる。そして、生徒が地図帳のどこに着目すればよいのか確認しやすくするためにも、デジタル地図帳による提示は効果的である。

本校の電子黒板ではタッチパネル式で書き込

みができるため、地図に行く作業、作業を通じて空間的な関係をとらえさせる視点などの共有を図ることができている。

歴史の授業で地図帳を使うことは、

- ・日本（あるいは世界）のどこの話をしているのかを全体の中に位置づけることができる。
- ・歴史的な事象の推移を空間的な結びつきの中でとらえることができる。
- ・歴史で学んでいることが現代とどのようにつながっているか、現代に残る地名から結びつけることができる。

などの効果があると考えられる。そして、共有を図るためのものがデジタル地図帳である。

## 4 おわりに

現行の学習指導要領解説社会編の〔歴史的分野〕3内容の取扱い（1）－エに「地図の活用に十分留意して（中略）地理的条件に着目して取り扱ったりすることが大切である。」とある。

また、先日告示された次期学習指導要領の第2節社会 第2〔歴史的分野〕3内容の取扱い（1）－イに「調査や諸資料から歴史に関わる事象についての様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習を重視すること。その際、（中略）地図などの活用を十分に行うこと。」とある。さらに、キに「歴史に関わる事象の指導に当たっては、地理的分野との連携を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫する」とある。

これらを踏まえて、今後も地理的分野にとどまらず歴史的分野でも広く地図を活用したい。そうすることによって生徒は多面的・多角的な考察が行えると考えられる。

その際には生徒が地図の同じ場所を見て考察することが大切であり、その一助となるのがデジタル地図帳であると考えられる。